



4. 杵原から旧 375 号国道 沿いの石挟いしばさみを歩く

コース案内 **1**～**7**

【発着地】 高屋西地域センター

【総距離】 約 5 km

【楽しみ処】

県道西高屋線を北に国道 375 号線まで進み、大久保ダム手前から右へ入り旧道を北進する。旧今井家屋敷跡の石垣を左に見ながら反転して、棚田の中の道を下る。この高台から白鳥山を見渡すと、西高屋が美しい盆地の中にあることがよくわかる。遠くを見ながら下っていく。警察犬訓練所のそばを通過し農免道を横切り、杵原上集会所、杉森八幡神社へと進む。距離と高低差はかなりあるが、歩いて 3 時間ぐらいで帰ることができる。

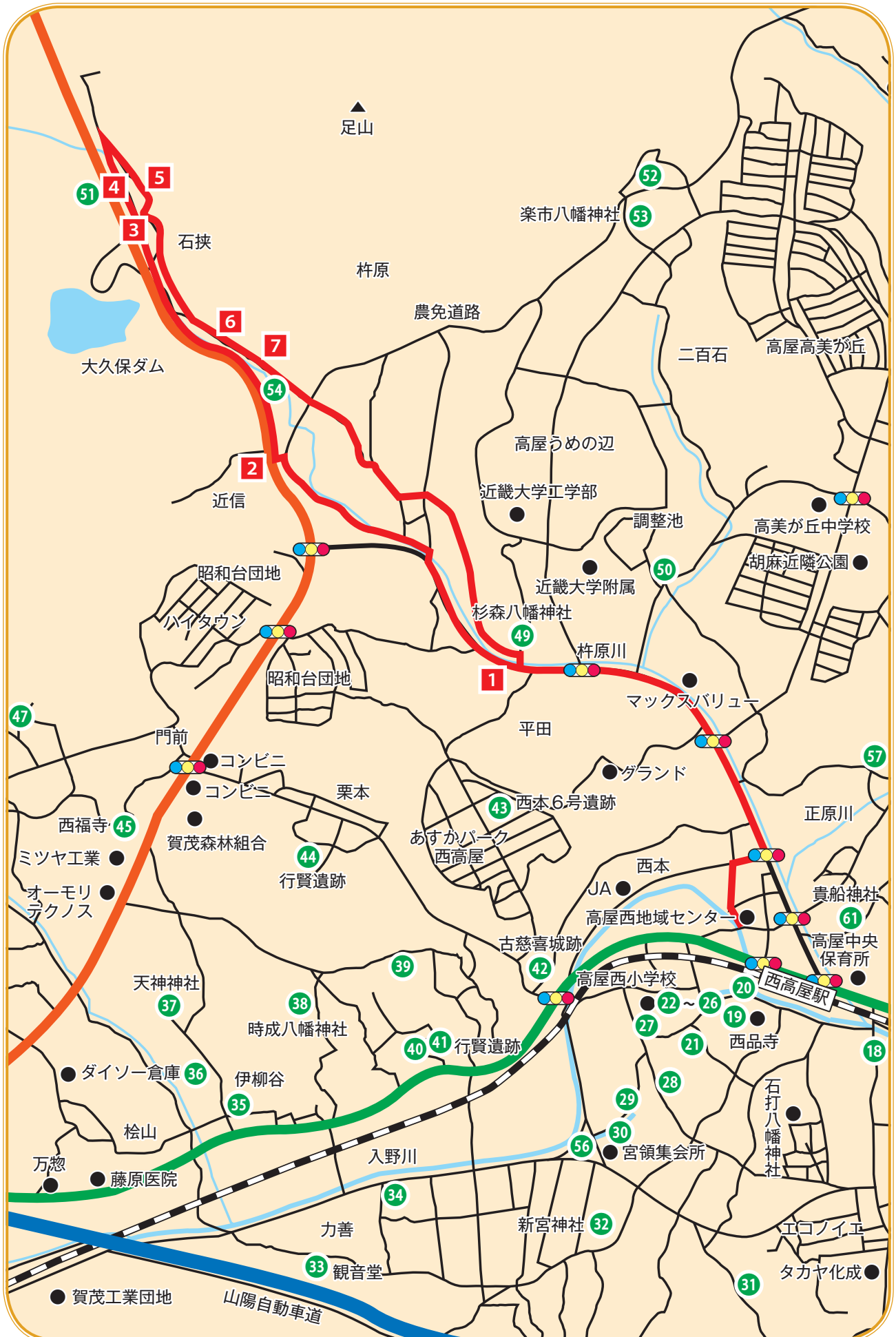
警察犬訓練所では、一般家庭の犬のしつけや一時預かりもしているようだ。

今井家は、室町時代には平賀氏の家臣であったが江戸時代になると帰農して杵原村の庄屋となり、中島の石打八幡神社や杵原の杉森八幡神社そして楽市八幡神社などにある石柱や手水鉢にその名を残している。

杉森八幡神社は、杵原村の村社であったが、その歴史は古く社殿を建立したのが平安時代（天養元 1144 年）に遡るといふ。この天養元年という年を由来の中に記す場所が他にもある。稲木の西福寺と同じく稲木の西八幡神社である。天養元年は平清盛がまだ安芸守になっていない時期なのだが、この年高屋に何かあったと思わざるを得ない。



4. 杵原から旧 375 号国道沿いの石挟を歩くコース案内 1~7



■コース案内

●史跡案内看板設置場所



1 杉森神社（杵原）



トイレ有。 1140年（保延六）3月、今井兼久の祖先吉房が私林に祠を建て、宇佐八幡宮の分霊を勧請、1144年（天養元）杉森の城主が社殿を建立して崇敬した。慶長5年、今井兼久が神より杉の葉を賜る夢を見たことにより、杉森神社と呼ぶ。まっすぐに登る階段に足がすくむ思いがしたが、意外と楽に登れた。石段は154段ある。旧広島市民球場からもらった椅子がある。神社前の橋には「ギボシ（擬宝珠）」があるのも珍しい。



2 造賀、西条分かれ道



旧道と375号線の交差点。
背後は、稲木近信。農免道路の入り口。

3 旧道：造賀一杵原



旧375号線。杵原上の石挟地区である。道幅は広く、歩くには申し分ない。今は、地元の人々の車しか通らない。白鳥山、緑山が見える。近くに木イチゴがなっていた。訪れた日は暑かったので、木陰があり、風が吹いて避暑地のようなであった。



4 旧今井家（杵原の石挟）

(ア) 屋敷跡と石垣



この屋敷の裏山の上を国道375号線が走っている。

(イ) 旧今井家前の石橋



広い屋敷跡の前には、古い石垣だけが残っている。この旧今井氏の名前は、石打八幡神社、杉森八幡神社など色々な場所の石柱に刻まれている。



西高屋の初代村長今井兼綱が、洪水を防ぐために自費で川底に石を敷き詰めたもの。

5 造賀へ行く旧道。



のどかな風景が続き、心が安らぎます。遠くに白鳥山などが一望できます。

6 増原実氏頌徳碑



元警察署長。第11代村長。
県議会議員4期当選。第14代町長。旧375号線の傍らにある。元内閣総理大臣池田勇人氏の書による。



7 警察犬訓練所



5. 中島・宮領を歩く

～昭和隧道・新宮神社・石打八幡神社を巡る～

コース案内 **1**～**9**

【発着地】 高屋西地域センター

【総距離】 約 4 km

【楽しみ処】

太平洋戦争末期に広島や呉の工業地帯へ空爆が激しくなり、特に軍需工場は国から疎開を指示されていた。日本製鋼所もその中の一つで、工場疎開先は高屋であった。西高屋駅周辺には、その当時、工場用地や社員寮を建設するために 開発されたところが数カ所ある。駅南の入野川に架かる山陽本線下のガードをくぐり抜けた右側に鉄橋の橋脚の残骸が今も残されている。工場の資材を搬入するために駅から引き込み線を敷設しようとした用地が今も未使用のまま放置されている。戦争の遺産である。現在の高屋中学校や、かつてのマツダ団地の敷地は、工場用地のために開発されたところである。また県立広島中高等学校の敷地は、もと工場で働く人のための社員寮が建設されたところである。

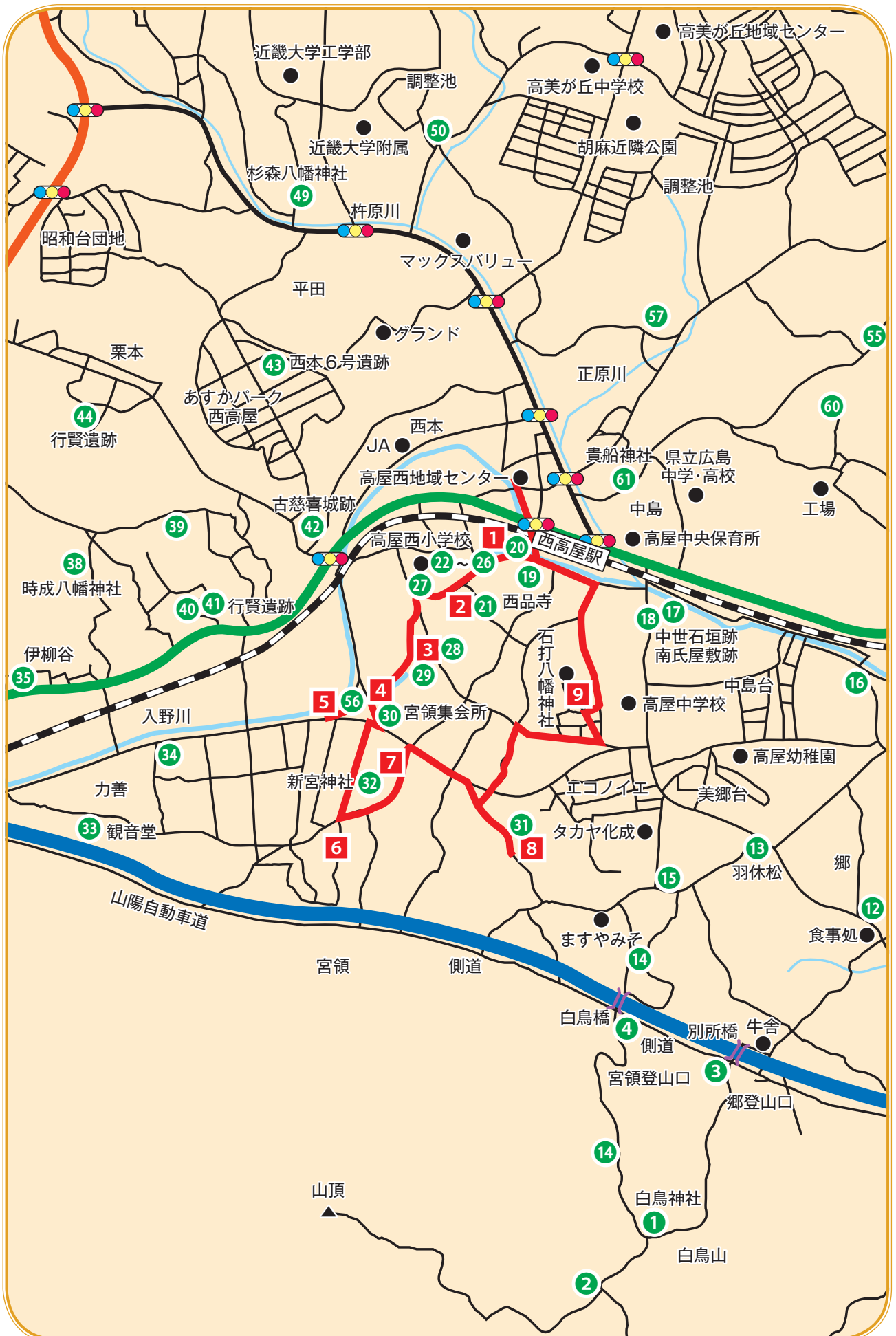
宮領から中島へ直接排水するためにトンネルを掘った、いわゆる昭和隧道の建設費は、鉄道線路の引き込み線を作るための財源の一部を充てたものであった。このようにしてみると、太平洋戦争下の工場移転計画が地域開発の推進に役立ったという皮肉な一面を見ることができるのも興味深いところである。

新宮神社に使われている木材の一部は、室町時代のままだということである。

石打八幡神社は、鎌倉時代末期の蒙古襲来（元寇）の時（1281年）、元兵が神風により退却したので、村民はこれを賀して一社を建立して京都の石清水八幡神社の八幡大神を勧請したということだ。氏子は、宮領・中島・郷・溝口・兼重・貞重である。頭崎城跡にある頭崎神社はこの石打八幡神社の摂社である。なぜこのような広い地域を氏子としたのであろうか。おそらく室町時代の勢力争いにその原因があるかもしれない。



5. 中島・宮領を歩くコース案内 1～9



■コース案内

●史跡案内看板設置場所



1 引き込み線跡（中島・JR 駅南）



JR西高屋駅南側にある。太平洋戦争末期に、軍需工場であった日本製鋼所を高屋に疎開移転する計画があった。資材を鉄道で運びこむための鉄橋跡が残っている。しかし、終戦のために作っても使用せず。

2 昭和隧道出口（中島西南）



宮領川下流（西高屋駅裏側）

3 昭和隧道入口（宮領）



宮領川上流

4 耕地整理記念碑（宮領）



大正2年5月。
宮領集会所入り口にある。

5 柳田安巳先生頌徳碑（宮領）



第10代西高屋村村長。
昭和隧道建設に尽力（昭和26年）。

5 西条との分岐点（宮領）



大正4年。牛の彫り物有。



6 坂田亮三翁頌徳碑（宮領）



宮領西地域にある。
立派な教育者であった人物である。

8 西条層（露頭）（宮領）



西条層という土の堆積でできたもの。こちらは、郷と宮領を結ぶ昔の道路横にある露頭。

7 新宮神社（宮領）



61段の石段である。16世紀の建らしい。宮領の氏子によって祭が行われている。神殿は、三間社。トイレ有。

9 石打八幡神社（中島・石打園）



鎌倉時代後半の、元寇の際、建立されたといわれている（1281年）。

この神社を祭る氏子は、中島・宮領・郷・溝口・重兼・貞重とされている。

高屋中学校の西側 団地内の高台にある。



6. 中島にある学校3校及び 保育所と西品寺をめぐる

コース案内 **1**～**4**

【発着地】 高屋西地域センター

【総距離】 約3km

【楽しみ処】

中島には東広島市立の高屋中央保育所・高屋西小学校・高屋中学校と広島県立広島中学校高等学校がある。いわゆる文教地区である。

高屋中央保育所がある小山は、周囲の低地の中に一つの小島があるように見えて、中島という地名の由来になったともいわれている。かつて明治時代に猛威をふるい、高屋でも多くの死者を出した腸チフスやコレラなどの伝染病に罹った患者を隔離する病舎がこの小山に作られていた。

高屋西小学校の高台は、藝藩通志によると「コシキカ城跡」と書かれ何らかの史跡があったものと思われる。入野川を挟んでその北側対岸には、室町時代の城跡「古慈喜城」があったという調査結果が報告されていて、対抗勢力同士の争いがあっただろうということは想像できる。その後は上の平地を開いて畑にしていたところを小学校の運動場として整備することになった。学校の南側に奥の谷遺跡がある。そこには未だ未発掘ではあるが、前方後円墳らしき跡が山林に埋もれている。

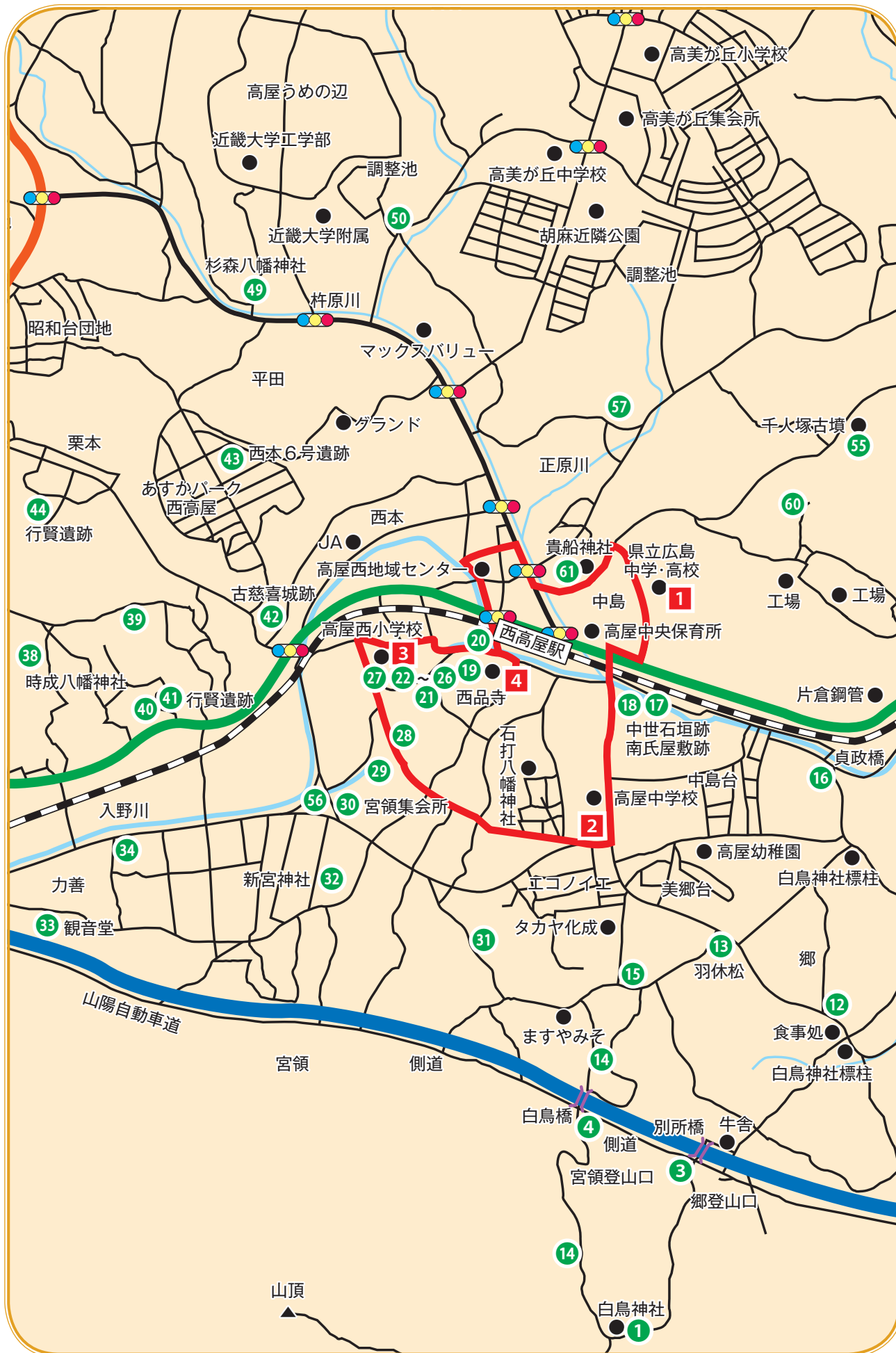
高屋中学校は、戦争中に日本製鋼所の工場用地として開発されたところだ。校庭には「旭が丘」という石碑が残っていて、校歌でも歌われている。学校の裏には「原の谷古墳」が発掘された。

県立広島中高等学校も、かつては沼地のような水田を埋め立てて日本製鋼所の社員寮を建設したのであるが、戦後運輸省が管理して「国鉄バス教習所」を作った。その後広島県が購入して、県内の学校の模範となるべく中・高等学校一貫教育を設立して現在に至っている。

最後に西品寺を訪ねてみよう。鎌倉時代末期に幕府が高屋に派遣した地頭平賀氏の一族といわれているだけあって、貴重な文化財が多く眠っている。門徒の数の多いことでも知られている。



6. 中島にある学校3校及び保育所と西品寺をめぐるコース案内 1~4



■コース案内

●史跡案内看板設置場所



1 広島県立中学校高等学校



旭が丘
高屋中学校校庭にある記念碑



2 東広島市立高屋中学校



3 東広島市立高屋西小学校

(1) 正門（正門を出ると木原松桂翁、有田温三翁、山田英三翁の頌徳碑や日清戦争戦勝記念碑が建立されている。）



(2) 現在の校舎





高屋西小学校の南側の門

もともと線路の北側にあった尋常小学校の正門扉をここに移設したもの。

4 西品寺 (ア) 正面の門



(イ) 境内にある県重要文化財の「石造水槽」



大きな石をくり抜いてある。

石の水槽の内側。西品寺ができる前の物。深さ120cm、幅65cm、高さ70cm。

(銘) 元亨2年(1322年) 壬戌7月23日行賢。稲木の廃長楽寺から移転したといわれているが、中島の南家屋敷にあったとも言われる。



(ウ) 貴重な文書



1585年(天正)

豊臣秀吉が九州征伐に西下する時に、同行した本願寺住職が西品寺専正宛に書いた手紙が残っている。

これ以外にも、六字名号「南無阿弥陀仏」の掛け軸(1449年7月)など貴重な品々がたくさんある。



7. 郷・溝口を歩く

コース案内 **1**～**10**

【発着地】 高屋西地域センター

【総距離】 約 5 km

【楽しみ処】

高屋中学校の側を通過して郷地域に入ると、「羽休めの松」（一本松）の記念碑がある。日本武尊の白鳥伝説の最終地といわれている。宮領と溝口・重兼とを結ぶ古代の主要道路ではなかったかと思われる。江戸時代の有力者であり割庄屋の有田家（現在は食事処）のそばを通り小寺池へ。山陽道をくぐると白鳥神社の標柱がある。昔竹原の田万里へ抜ける道を少し行けば、下馬石の石碑がある。ここで馬を下りて先ほどの標柱から白鳥神社へ登ったのであろう。小寺池に上がってみると、満々と水をたたえた大きな池のそばには江戸時代（天保二年）に堤防修復を行った記念碑が建っている。この堤防が決壊すると、溝口は大きな被害になることは容易に想像がつく。

小寺池を下りると、東広島呉自動車道路のジャンクションがある。その建設工事の際に、この場所から鎌倉時代の役人の屋敷跡が発掘された（溝口4号遺跡）。

その屋敷内には川の水を引き入れた大きな庭園があり、かなりの有力者であったことがうかがえる。高屋は平安時代頃から朝廷の大炊寮（食事を司る所）の荘園（高屋保）であった。この荘園の管理者（荘官・雑掌）の屋敷跡だと推測されている。彼等は白鳥神社の力を背景にした在地の豪族南氏らとともに、幕府から派遣された地頭平賀氏と対立していたものと思われる。

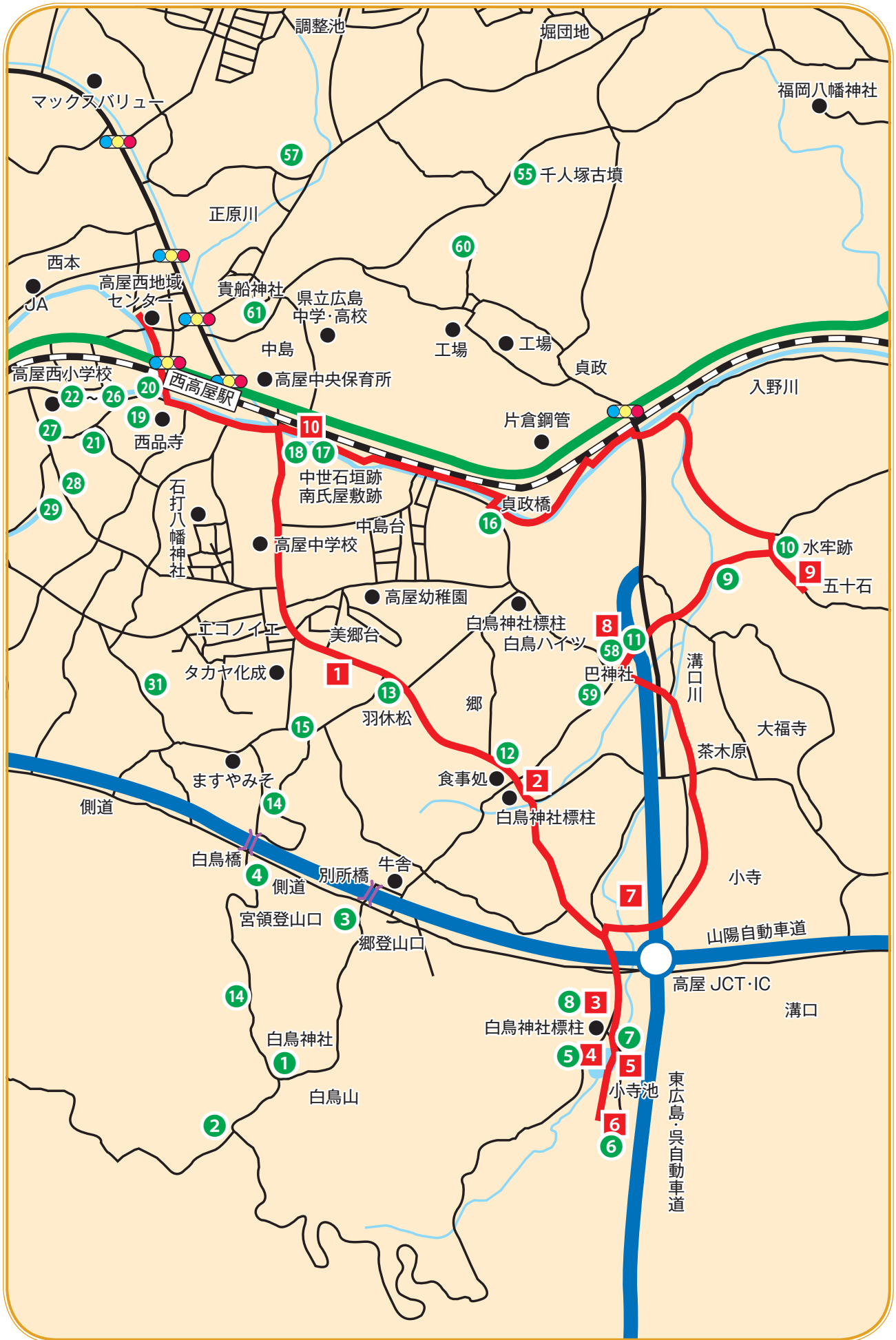
かつて西高屋村の村長であった山田英三翁の屋敷跡にはとても見事な亀の甲羅の形をした石垣がある。そのすぐ上には翁の寄付による広大な巴神社の境内が広がっている。

東広島呉自動車道路への侵入道路をくぐり、東側に入ると行政区は東高屋だが小学校区（住民自治協議会）は西高屋という五十石という地区が目の前にある。

ここには「水牢跡」があるといわれているが、竹林と雑草の中でその場所は確認できない。平賀弘保（15代）の頃（16世紀初頭）地頭勢力は次第に西高屋へ進出。白鳥神社を中心とする在地豪族と朝廷大炊寮荘官勢力が、二宮の白鳥神社に土地を寄進することで租税を免れていた（不輸祖）ことに対して、荘園の租税徴収者としての地頭平賀氏は、「水牢」を作ることで徴税を強く迫っていたものと考えられる。このようにこの五十石と溝口の東側は地頭の勢力下、溝口の西半分と郷は白鳥神社の勢力下にあったと想像できる。



7. 郷・溝口を歩くコース案内 1~10



■コース案内

●史跡案内看板設置場所



1 羽休めの松（郷）



俗称「一本松」という。

（日本武尊の白鳥伝説）

昔、白鳥が松に羽を休め、白鳥山に向かって飛び立ったという松が1本あったが、現在は残っていない。

2 白鳥神社標柱（その1）（郷）



3 白鳥神社標柱（その2）（溝口）



小寺池近くの白鳥神社標柱

4

堤防の修復の寄付者の碑。
（天保2年）（溝口）



白鳥神社別当地。小寺池周辺に「廃神宮寺、廃十楽寺、廃佛善寺、廃大福寺、巫女屋敷、土器屋（かわらけや）、畳屋、鐘楼跡」などがあつた。

5 小寺池堤防改築寄附者の碑（溝口）



6 下馬石（竹原田万里へ向かう道筋にある）（溝口）



馬で神社参詣に来た人が下馬する所



7 溝口4号遺跡（溝口）



鎌倉時代から室町時代にかけての朝廷大炊寮
荘官の屋敷跡（現在は東広島呉道路の用地内）
大炊寮とは、朝廷の食料を管理する役所。
高屋はその大炊寮の荘園であった。

8 山田英三翁屋敷跡の石垣—亀甲石



六角形に切った見事な亀甲の石組み。
約121列の5段の数だそうだ。この石垣の上に屋
敷があった。この屋敷の後方上に巴神社があり、
その境内は、山田家の寄付によるものである。

9 五十石の水牢跡（東高屋五十石）



五十石には室町時代の水牢跡があったという。
鎌倉幕府の地頭として平賀氏が高屋堀に入って
来た時、高屋には白鳥神社を中心にした在地の
豪族が朝廷の大炊寮の荘園の管理者としてす
でに勢力を保っていた。荘園の徴税者としてきた
地頭は、在地の豪族たちが白鳥神社に土地を寄
進することで租税を免れていたことを改めると
いう理由で、在地の勢力に対して圧力を加え始
めたのだ。水牢はその圧力の一つであったと思
われる。

10 南氏屋敷跡の石垣（中島）



地頭平賀氏に抵抗する在地の豪族の中心に南氏
がいた。南氏の屋敷跡は、中島の入野川古土井橋
を渡った所にある。